

船越中学校便り

中 研 司

<http://www.funakoshi-j.edu.city.hiroshima.jp/>

成長 - 成長に逆転満塁ホームランはない -

最近、学校朝会を通じて生徒に訴えかけていることは、「人間の進歩や成長は、日々の前向きな気持ちの持ち方やその日やるべきことを一步一步やり遂げていくことによってしか得られない」ということです。

つまり、毎日の授業や部活動、清掃、「分かった」という気持ちで授業を受けるのと、ただ漫然と受けるのでは、1日や1週間ではその差は見えてこないかもしれませんが、1月、半年、1年では非常に大きな差となって結果に現れます。部活動でも同じことが言えますし、日々の清掃では、その差は1日1日結果となって現れます。

満塁ホームランでは、1打で4点入ります。勉強をいつもの4倍すれば、遅れはすぐ取り戻せると生徒は感じるかもしれませんが、しかし、日ごろの勉強を4倍にする生活は、続いても1週間から10日です。せいぜい取り戻しても1月分です。だいたい、そのような勉強は、4倍の能率で身につくもしませんから、結果的には、疲れるだけで、そんなに取り戻せなかったという後悔が残るだけです。**成長に逆転満塁ホームランはありません。**

広島平和文化センター理事長 スティーブン・リーパー 氏の講演を聞きました
「戦争文化と平和文化について～学校に平和文化の構築を～」

氏は、この4月から秋葉市長のたつての要請で、現在の職に就かれました。

氏の主張は、『意見の対立を力(暴力)で解決するという「戦争文化」の手法は、すでに問題解決の方法としては、機能しなくなってきている。戦争に変わる問題解決の手法として意見の対立や問題の解決のために、人々が集まりその原因やシステムの問題を探し対立(社会的な痛み)を調整し、みんなが受容できるような状態に戻すという問題解決の手法をとる「平和文化」を構築する必要がある。そのためには、まず学校に「平和文化」を構築することが重要である。』というものでした。

ちなみに、氏のお父様は、宣教師として日本に滞在中、青函連絡船洞爺丸の遭難によって亡くなりましたが、その際、「自分よりもこれからの日本を作っていく若いあなたにこそ生き残る価値がある。」と、自らの救命胴衣を若い日本の女性に譲ったという、三浦綾子の小説「氷点」の中に出てくる宣教師のモデルとなった方もあります。

本年度の主な行事の予定です

月	行 事
4	入学式、身体測定、健康診断、習熟度テスト(1年)、家庭訪問 全国一斉学力調査(3年)
5	授業参観、PTA総会、習熟度テスト(3年)、修学旅行(関西) 防災訓練、生徒総会
6	1年生野外活動、前期中間試験、基礎基本定着状況調査
7	合唱祭、地域清掃・地区懇談会、夏休み前3者懇談会
8	ステップアップ講座、市総体
9	習熟度テスト(2・3年)、体育祭、前期期末試験、学校公開週間
10	身体測定、授業参観、前期終業式、教育相談週間 習熟度テスト(3年)、2年野外活動
11	学校へ行こう週間、創立60周年記念行事、後期中間試験(3年) 生徒会役員選挙、ふるさとまつり(意見発表)
12	後期中間試験(1・2年)、3者懇談会(3年)
1	後期期末試験(3年)、職場体験学習(2年)
2	授業参観、習熟度テスト(1・2年)、入学説明会 後期期末試験(1・2年)
3	教育相談週間、卒業証書授与式、修了式、離・退任式

全学級、合唱祭に向けてラストスパート!

今年も、合唱祭を1週間後に控え、全学級とも、今年こそはと合唱の練習のラストスパートに入っています。

毎日、帰りの学級会から練習を始め、どのクラスからもパート練習や、各パートをあわせての練習や調整の大きな声が聞こえてきます。しかも、体育館や武道場の練習時間の割り当てでも出来るだけ目一杯使おうとクラスからの移動、集合も迅速で目を見張るような意欲的な動きです。

このような様子を見ていると、生徒たちに明確な目的と高い意欲を与えることが出来たときの生徒のエネルギーやその集中力のすごさを見せつけられる思いを抱くとともに、願わくば、このような生徒の姿をあらゆる教育活動の場面に出現させたいものだという願望を抱かずにはいられません。